

ふるさとだより

2021年6月

社会福祉法人 聖フランシスコ会

ふるさとの家

〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋3-1-10

Tel 06-6641-8273

Fax 06-6641-8215

〔郵便振替 00930-2-50858〕

E-mail: cs-furusato@jasmine.ocn.ne.jp



ふるさとの家を支援して下さる皆様へ

5月の最後の日曜日に三位一体の祝日がありました。

その神秘がよく理解できるために、東洋美術にある三位一体のイコンを見てください。

このイコンで神様には三つのペルソナがいます。左側が御子、真ん中が御父、右側に聖霊が描かれています。三人共食卓を囲んでいます。

見ると手前の席が空いていますね。それは我々の席です。神様の家族の食卓に我々も入れてもらっているのです。

支援者の皆さんはこの神様の家族の模範に従っています。

皆さんも自分の食卓に空席をもうけて、ホームレスのためにとって下さっている。この神様の家にならって、家がない人のために席をとって下さってありがとうございます。

家がある人達が皆自分の食卓に神様の家族のように席をとってくだされば、世の中にホームレスはなくなるでしょう。

どうぞ皆さん、そういう意味で三位一体の祝日を記念してください。

十字架のしるしをするたびにこのイコンを思い出して支援をくださればありがたいです。

ルカ神父



緊急事態宣言下でもふるさとの家は開いています

毎日 12 時に玄関を開ける。ひとりひとりのマスク着用を確認、検温をし、消毒をして入ってもらう。一年以上もやっていれば利用者も慣れたもので協力的です。が、文句を言う人には「利用者コロナ感染者が出れば閉めることになります」とこちらとも言わなければなりません。

「すみません、検温します」などの声掛けを「こんにちは」と言い方を変えました。すると、一見とっつきにくそうな人、無愛想な人も思いのほか返事を返してくれ、自分が偏見を持っていることを気づかせてくれます。明らかにマスクで耳が腫れている人、普段と顔色が違う人など、病院に行くことを勧めやすくもなっています。出入り自由なのに私が玄関にいて「買い物に行ってきます」とか「すぐ帰ってきます」とお出かけするこどものようにかわいらしいです。そして一瞬検温ができない状態になるとじーっと起立して待ってくれたり、お茶やコーヒー、飴などの差し入れ、大変やろとか代わったろかと声をかけてくれる優しい人たちばかりです。

私は「以前に他の利用者とトラブルがあった人が来たな」と身が構えたり、明らかに酔っぱらっている人は玄関に入ることなくお帰りいただいたりということもしています。本当にいろいろ見えるもの、気付かされることがあります。

玄関先にいることで談話室や相談室に話に来ることのない物静かな人も話しかけやすいようで

「緊急事態いつ終わるかなあ」「ここはどうなんの？閉めるんか」

「コロナで他の教会なんかはみんな休んでる、行くところないわー」

「PCR 検査わしら受けれるんやろうか」

「コロナで入院が延期になったけど大丈夫かなあ」とか

「入院をすることになったから PCR 検査をやったけど、入院日までコロナに感染しないようにと家にこもらなあかんからしばらく来れんわー」といろいろ。

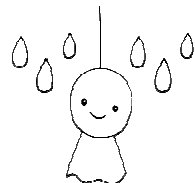
そしてやっとワクチンが接種できるようになってきつつあるものの・・

高齢者からワクチンを打てることになり接種券が来ても、大阪市は高齢者の中でも高齢順で受付けるので、順番に送るはがきを待ってとか、予約・質問しようにもコールセンターはパンク、インターネットが使えない人が多いのにホームページを見なければ情報がない。集団接種だけでなく、かかりつけ医でも接種できると情報があるが、なかなかワクチンがこないともう不安だけがみんなの話題。

そんななか、長いこと世話になっているケアマネさんが「ワクチンに関する相談をお手伝いしますよ」とを申し出でくれ、相談者に合わせ一軒一軒接種の問い合わせなどしてくれ、すごく助かっています。予約を取りやすいかかりつけ医もありますが希望者が多く申し込みを中断していたり、予約できても 8 月になるなど大変です。

毎日検温の時によく話をする Y さんは「自衛隊の接種が一番早いから、インターネット予約始まったら頼むわー」と言っていたが「やっぱりかかりつけ医の方が早く接種出来るらしい、〇〇病院で予約してきたわ」「いろんな病院が接種できるようになってきたから貼りだしたらなあかんで」とワクチン接種のことをものすごく調べています。そして「最近感染者が減ってるやろ、あれはワクチンにみんなの関心移って PCR 検査をする人が減っているだけちゃうか」と。もちろん緊急事態宣言で自粛されている人が大方ではあると思いますが、なるほど一理あるなと思いました。

今この文章を書いている時にもニュースで、「大阪市の大規模接種会場の予約が40パーセント強しか埋まってないのでインターネットのみの申し込みを電話でも受け付けるようにする」らしい。なんだかなあ・・
まあそんなこんなでふるさとの家は今日も開いています。



炊き出し「勝ちとるの会」代表の春さん（中尾春男）亡くなる

1993年、釜ヶ崎の失業した労働者のために色々な団体が集まり反失業連絡会が結成され、行政に対し、仕事を出せ！寝場所を確保しろ！飯を食わせろと労働者を中心に訴えました。その反失業闘争の中で特に“食”を担うことに力を入れたのが釜ヶ崎の仕事と生活を勝ちとる会（勝ちとる会）です。春さんは炊き出し活動しながら、自らのイベント関連の会場設営の仕事に仲間を連れてき、ピースクラブで障害者の仲間と共に活動もしていました。7、8年前に傷口からばい菌が入り敗血症になり寝たきりになりました。それ以降もずっとピースクラブの仲間とともに過ごし、今年4月に亡くなりました。見送った方によると「春さんの心臓が、右向いて左向いたらとまりました」ということです。釜では春さんと共に色々な人が協力し炊き出しを続けてきました。春さんの留守を担う足立さんが代表を偲んでと出された春さん語録を一部抜粋したいと思います。

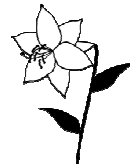
『心をこめて旨いものを作れ』 食材を粗末にした時や、その手際を含め、心のこもっていない振る舞いには、直接に怒った。

『自由な時間を持ち帰って、共有するプロセスが必要』 結果に囚われた支配の傲慢さ、市民性に内在する自己欺瞞、釜の人間は、それらを既に習得しているのだ。それに同意し、寄り添う“ことがら”からであったろう。

・常に弱者と言われる側と、共に生きるべきです』『俺は釜に就職したんや』『自分も修行中や』 具体的な行動も生活の実態も含めて、いくつかの挫折に鍛えられた、そのような求道者であった。

『真面目にならんでエエ、素直になれたら良い』 自分に自然になるそのことを言ったのであろうか。

対外的支援には失礼な程、謝意を表明しなかった。学生たちが洗い場に返される箸を受ける度に、手ずから受けて、一人ひとり顔を見て「ありがとう」と言うように言っていた。『一人で良い、おっちゃんの顔を覚えて帰りなさい』と。その孤独な側の“一人”を見つめる事がその基本だった。 すべてが懐かしい。



Kさん、さようなら

Kさんとは、ほぼ毎月、精神科と内科と一緒に行っていました。玄関の扉を叩くと、いつも愛嬌のある笑顔で、「ねーさん、いつもすまんなあ！」と言って、迎えてくれました。病院に行くことを拒否されたことはありませんでした。病院に行く前にお知らせに行っていたのですが、留守のときは「〇日病院に行きますので、〇時頃来ます」というメモを扉に挟んでいました。必ずそれを読んでいて、いつもきっちり覚えてくれていました。Kさんには幻聴があり、「警察に呼ばれたんや、わしのこと、皆知っとる！」と言われることもたびたびありました。今年の初めくらいからは、ドクターの勧めで、血圧計を購入し、毎日自分で血圧を測ることもはじめました。きちんとノートに、一日3回の血圧を記録していました。わたしが最後に病院に付き添わせてもらった時も、出かける前に「まだ今朝、測ってないから今から測る」と言って、測って記録してから、ノートを持って病院に行ったのを覚えています。88歳にして、新しいこともきちんとされて、すごいなあと思っていました。ここ2か月くらいは、介護度も上がって、ヘルパーさんが入る日が増え、デイサービスの日もいれると、ほぼ毎日誰かと関わるようになっていて、私も介護の方たちもアパートの人も安心していました。

そんな矢先...。ある朝、アパートの管理人から電話が。「Kさん、亡くなっている...。自死...。」ええええ——っ！！なんで、なんで！！自分で血圧測ってたやん！薬も飲んでたやん！デイも喜んでたんと違うん！...。前日のデイでも、変わった様子はなかったとのこと...。私は幻聴が原因だと思っています。

個人的な話なのですが、私自身の親類の二人を自死で亡くしています。一人は阪神大震災が原因、もう一人は統合失調症でした。やはりそのことを思いださずにはいられませんでした。統合失調症の親類には、向き合うことはなかったのですが、なんとなく常に心にひっかかっていました。震災が原因の人のことは、私自身がその出来事と向き合う機会があったので、今は受け入れています。そして、向き合うのを助けてくれた、私の信頼する人にKさんのことを少し話したところ、「自分の命を守ろうとした行為こそが彼の姿、いつも笑顔で迎えてくれた姿、それこそが彼だよ...」と言われました。確かに！この姿こそ、Kさんだ！良くなるために、血圧を一生懸命測っていた姿、私をいつも愛嬌のある笑顔で迎えてくれた姿、それから、私が薬を持って行くのが遅れてしまったとき、Kさんは心配して「まだかあ？」とアパートの人に薬を確認したり、また別の時は、私に道中何かあったのかと心配してくれたり...それこそKさんだ！その姿こそ、私の心に保存しようと思いました。そう思うと、やはり幻聴が犯人だと確信できます。そして、統合失調症だった私の親類も、本人ではなく、幻聴が犯人だったんだ！と信じることを、Kさんが助けてくれている...そんな風にも思えました。

90歳にもうすぐ手の届くところだったKさん、もっと生きてほしかったけれど、命を守ろうとして血圧を測ってノートする姿、薬を要求する姿、いつも迎えてくれた愛嬌のある笑顔、忘れません。これこそKさんです！



ちょっと“難しい”人たち

嶋田 ミカ

「こんにちは、ふるさとの家です、こんにちは、ふるさとの家です」

しばらくして、ドアが開いた。ほっそりした男性がヨロヨロと出てきた。食欲を尋ねると「少しだけ食べた。水は飲んでいる」とか細い声で答える。

このAさん、1年ぶりに訪問したら、誰か分からないくらい激やせしていた。90kg近くあった体重が、今は50kgあるかないか。不眠で通院、睡眠薬と安定剤を飲んでいる。空腹感はあるのか、吐き気があるのかと聞くと、体は異状ないが、自分で食を断っている。もう2週間何も食べてないという。

「もう、どうなってもいいと思ってそうしてるから、放っておいてほしい」とAさん。足元の布団には、トコジラミの血の跡が無数についている。

「虫の駆除だけでもしましょうよ、ヘルパーを頼みませんか？」熱心に勧めると、やっと承諾してくれた。良かった！「少しでも食べて下さいね」

すぐにケアマネと再訪すると「やっぱり自分でできるから介護はいらない」その後、何度も訪問して、部屋の掃除や引っ越しを説得するが、頑として受け入れない。あまり追い詰めて拒食の症状が進んでも困るし、かといって希望通り放置したら最悪餓死という結末も有り得る。どうしよう、頭を抱えている。

腰痛で入院していたBさん。初めて部屋を訪ねた。古いアパートの中は薄暗く、床も壁も朽ちている。壁のように急な階段をあげる。引き戸を開けると、尿瓶代わりの袋が下がったベッドにBさんが横たわっている。窓には紙が貼ってあるだけだ。あまりの惨状に、言葉が出ない。

気を取り直して話を聞く。曰く「毎日ヘルパーが来て買い物や掃除はしてくれる。自分は動けないので、外出はできない。入院する時も階段を下りるのが大変だった。風呂にも行けないので、もう1年くらい入っていない」

「空きがあれば施設に入りたい」と言うので、すぐにケアマネに会って、入所できる施設を探すことにする。ケアマネによれば、これまでも散々、施設や転居を進めてきたが、本人が拒否するので、実現できずにいるという。再びヘルパーと訪問、施設入所や見学を勧めると、「今すぐはちょっと…もう少し考えてみる」その後何度勧めても、同じ返事が返ってくるだけだ。

AさんもBさんにしても、バス・トイレ付きの部屋や、施設などの「快適な」環境をなぜ拒否するのか。他人の世話が嫌なのか、自由を失うと恐れているのか、支援者を信用できないのか、新しい環境が不安なのか、「快適」さの押し付けなのか、苦労を重ねる中で自暴自棄になったのか。理由は分からないけど、いつか頑なな心がほどけると信じて通い続けようと思う。



こんにちは。みなさんといっしょに釜ヶ崎の仲間たちにつながって日々を送れることをありがたいことと思っています。ついこの間は狭山再審を求める「釜ヶ崎住民の会」がふるさとの家であり、例年東京で開かれる全国集会にコロナのせいで行けなくなったことを残念がる労働者がいました。

5月3日には「ケア・ワークス」(ヘルパーさんたち)の決起集会がふるさとの家で持たれ、参加者たちの熱い思いが語られました。

先日、わたしのケイタイに年配者らしい男声の電話がありました。彼は体調も思わしくないので、少しづつ身辺整理をしておこうかと思いはじめている、「反失連」(釜ヶ崎反失業連絡会)への振込用紙送ってくれとのこと。話振りから察して、教会関係の方かなと当りをつけて、教会に寄付するよりはご自身の周辺の貧しい方たちのために何かを考えられることをおすすめしますというようなことを、わたしは言っていました。電話を切ってから気がついたのですが、わたしがしゃべっていた人は岡田武夫(東京大司教)さんだったみたい。しばらくして反失連に10万円振込まれました。その後10日くらいして、東京大司教の岡田武夫さんが病院で亡くなられたというニュースを知りました。

あとになって、つい最近伝え聞いたことですが、岡田司教さんは大司教の在任中、教区司教としての手当のみで生活していたとのこと。あらためてご冥福をいのります。



ボランティア紹介

呂^ろさん 去年までのボランティア常^{じょう}さん(紹介し忘れてたかも…)の大学の後輩で、週一回散髪^{さんぱみ}のボランティア来てくれています。

脇^{わき}田さん ケアマネの仕事が忙しい中、ワクチンの相談を手伝っていただいています。タイムリーで大助かりです。

Sr藤野さん お隣の愛徳姉妹会の重鎮です。木梨さんが転勤になったので出来ることがあればと週々回来てくださり詰め所の当番などをしていただいています。

ありがとう

事務室より

☆ 2020 年度会計報告

(2020 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)

単位：円

収入の部		支出の部	
寄付金	19,498,844	人件費	11,499,041
受取利息	2,552	活動費	2,476,952
雑収入	575,516	資金収支差額	6,100,919
合計	20,076,912	合計	20,076,912

雑収入：バザー売上 売電

人件費：常勤 2、非常勤 3

活動費：事業費（保健衛生費、教養娯楽費、水道光熱費等）

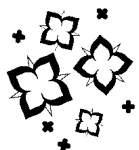
事務費（ボランティア交通費、通信費、消耗品費等）



★寄付金控除について

社会福祉法人聖フランシスコ会ふるさとの家への寄付金は所得税、相続税の寄付金控除や法人税の損金算入など税制上の特別措置が認められています。詳細は国税庁のホームページ (<http://www.nta.go.jp>) でご覧いただけます。

※寄付金控除を受けるためには確定申告時に「領収書」が必要です。大切に保管していただくようお願いいたします。



ふるさとの家で必要なもの



特に不足しているもの

かみそり・ライター（共に使いきり用）・石けん・タオル・ジャム
使いきりマスク・消毒液

- 男性用の衣類(季節のものを) ・肌着（パンツ・シャツ、新品を）・靴下
- お菓子（誕生日会に） ●お茶・コーヒー・クリーム・砂糖
- インスタントラーメン・箸 ・割りばし ●レトルト食品・缶詰
- 絆創膏（バンドエイド） ●雨具（カップ・傘） ●洗剤（洗濯・食器用）
- 大きめの紙袋 ●アメニティグッズ（特に小石けん、シャワーキャップ）
- 運動靴(スニーカー24~26cm)、カバン（ポストンバック・リュック）
- 毛布、寝袋（10月～3月の間のみ、きれいなもの。布団は使えません）、カイロ

注意

※ 食品は賞味期限内のものだけをお願いいたします。

布団、背広・コート・カッターシャツ、女性衣類、子ども衣類、季節に合っていない衣類、汚れていたり破れていて人に渡せないような衣類は、使えませんのでくれぐれもご注意ください。

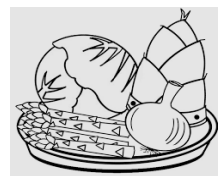
その他、保管場所がありませんので、負担になるものはご遠慮ください。
支援をお願いして申し訳ありませんが、**荷物に現金を入れないでください。**
郵便振替でお願いします。

お知らせ 連帯して活動している、三角公園の勝ちとる会の炊き出しは継続していますが、コロナにより休んでいます。そしてメンバーの高齢化などで事務所の維持が難しくなりました。今後、物資の送り先は下記に変更致します。

三角公園の炊き出しで使うもの

お米、調味料、日持ちのする野菜、乾物など

* 送り先 **557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 3-1-9**
TEL 06-6641-0069 愛徳姉妹会 藤野まで



* 礼状が必要な時はふるさとの家にお送りください

☆ 荷物についてのお願い ☆

「日曜・祝日・隔週土曜日」は、ふるさとの家の休みとなっています。
宅急便などで荷物をお送りいただく際には、
月曜から金曜の午前10時半～午後5時までに届くように、お願いします。